

大分県佐伯市と大阪府泉佐野市における 特産品取扱相互協定締結式次第

日 時 平成30年2月2日（金） 10:00～

場 所 大分県佐伯市役所（5階）庁議室

9:30 泉佐野市長佐伯市役所到着（予定）
（締結式までは佐伯市長と応接室にて懇談）

10:00 締結式開会（30分間）

（締結式次第）

- 1 開 会
- 2 佐伯市長あいさつ
- 3 泉佐野市長あいさつ
- 4 協定内容説明
- 5 協定取り交わし
- 6 歓 談
- 7 閉 会

10:30 閉会

※閉会后、マスコミ関係者の皆様の取材

協 定 趣 意 書 (案)

日本全国の各地域には、素晴らしい地場特産品が存在する。そして、その宣伝と情報の発信に各自治体は創意工夫しているところである。しかしながら、特産品にブランド力を持たせ流通ルートに乗せる販路開拓の難しさは、多くの自治体が認識しているところである。

他の自治体で特産品をPRすることは有効な宣伝手段のひとつであるが、受け入れる地域にとっては、他の自治体の特産品を自らの施設や事業で取り扱うことになり、地域住民の受益の観点からもさまざまな意見があることも事実である。

そのような環境のなか「特産品相互取扱協定」を締結し、自治体間で相互に特産品を取扱うことの位置付けを明確化することで、特産品フェアなどのイベント等でのPR活動や、ふるさと納税のお礼品に掲載するなど、他の自治体で地場特産品を情報発信することは、行政の垣根を越えた両市の地場特産品の宣伝と販路拡大に大いに寄与すると認識する。

佐伯市は、県内随一の水産都市として漁獲量を誇り、また、食のまちとして、「世界一・佐伯寿司」や郷土料理「佐伯ごまだし」の食のブランド化に取り組み、泉佐野市では、「泉佐野産商品化プロジェクト」により地場野菜等の6次産業化、ブランド化を進めていることから、平素より市政に必要な各種意見・情報の交換を行っているというご縁がある。そのご縁を大切に両市の特産品をはじめ経済と観光産業の発展を趣旨として協定を締結するものである。

**佐伯市・泉佐野市
特産品相互取扱協定締結式出席予定者**

【泉佐野市】

	部	課	役職	氏名	
1			市長	千代松 大耕	ちよまつ ひろやす
2	生活産業部		政策監(兼)生活産業部長	岡本 祐一	おかもと ゆういち
3	〃		まちの活性化担当理事	坂口 佳央	さかぐち よしひろ
4	〃	農林水産課	課長	植林 正浩	うえばやし まさひろ
5	〃	まちの活性課	泉州タオル担当参事	島田 純一	しまだ じゅんいち

【佐伯市】

	部	課	役職	氏名	
1			市長	田中 利明	たなか としあき
2	地域振興部		地域振興部長	高原 常彰	たかはら つねあき
3	農林水産部	農林水産総務課	次長兼課長	田島 隆虎	たしま たかとら
4	総合政策部	秘書政策課	課長	金田 隆	かねだ たかし
5	地域振興部	観光課	課長	稲好 直彦	いなよし なおひこ
6	〃	商工振興課	課長	渡辺 周三	わたなべ しゅうぞう

泉佐野市の概要

大阪市と和歌山市のほぼ中間に位置し、背後に一部が金剛生駒紀泉国定公園に指定された和泉山脈を擁し、美しい山河、緑あふれる恵まれた自然環境にあります。商・工・農・漁業がそれぞれバランスよく栄えてきましたが、関西国際空港の開港などに伴う人口の増加とともに、商業・サービス業が盛んになっています。

面積は約56.51平方キロメートル、人口は約101,000人、世帯数は約46,000世帯（平成28年4月1日現在）です。瀬戸内式気候に属するため気候は温暖で、比較的少ない降水量となっています。

名前の由来は、中世以来の村名「佐野」に旧国名和泉を冠したもので、伝承では「狭い原野」ということから「狭野」というようになり、それが転じて「佐野」とよばれるようになったといわれています。

昭和23年4月1日、佐野町の市制施行により泉佐野市が誕生し、昭和29年、南中通村、日根野村、長滝村、上之郷村、大土村の5カ村が合併し、現在の市域が形成されています。

平成6年9月に開港した関西国際空港によるインパクトを最大限に活用し、世界と日本を結ぶ玄関都市として、21世紀にふさわしい国際都市をめざしてまちづくりに取り組んでいます。

